

令和7年度 学校法人新潟科学技術学園 合同入学式
理事長告辞 全文

例年にも増して、寒暖の差が激しい本年ですが、ようやく桜の蕾も大きく膨らみました。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。学校法人 新潟科学技術学園の教職員一同、皆さんの新たな門出をお祝い申し上げるとともに、これまで皆さんを支援なされてこられたご家族、保護者、関係の方々には心からお慶び申し上げます。

この度、新潟薬科大学では350名、新潟薬科大学附属医療技術専門学校では64名、新潟工業短期大学では自動車工学科104名の新入生をそれぞれ迎えることができました。さらに、新潟薬科大学では大学院応用生命科学研究科博士前期課程9名、博士後期課程1名、新潟工業短期大学では自動車工学専攻科8名の入学生をお迎えいたしました。本学園の理事長として、多くの新入生を迎えられたことを大変嬉しく思っています。

私どもの学校法人 新潟科学技術学園の歴史を少しお話させていただきますと、本学園は「実学一体」を建学の精神として、1967年に設立されました。翌1968年には、東日本で最初の自動車整備士養成短期大学として、北都工業短期大学が開学し、1982年に新潟工業短期大学へと改名いたしました。学園設立から4年後の1971年には、新潟医療技術専門学校臨床検査学科が開学し、その後、視能訓練士科（1976年）、救急救命士科（1998年）、さらに看護学科（2017年）を開設いたしました。さらに、一昨年には新潟薬科大学附属医療技術専門学校へと改名し、大学との連携協力体制を明確に示しました。この臨床検査学科と看護学科は、一昨年の2023年に、新潟薬科大学 医療技術学部臨床検査学科と看護学部看護学科へと発展しております。学園設立10周年に当たる1977年に、新潟県内初めての4年制私立大学として、また、新潟県内唯一の薬剤師の養成を担う学部として、新潟薬科大学が開学しました。2002年には、食品・バイオ・環境に関する教育と研究に取り組む応用生命科学部を開設し、2012年には理科教職課程を、2015年には生命産業ビジネス学科の前身である生命産業創造学科を併設しました。そして、大学創立50周年を迎える2027年には、大学名称を新潟科学大学へ、応用生命科学部の名称を食農情報学部へと変更し、同学部内にグリーン・デジタル学科を、さらに医療技術学部内に救急救命学科を新設するように、現在準備を進めております。一方で、建物の老朽化が著しい新潟工業短期大学は、2026年度以降の学生募集を停止することといたしました。新潟工業短期大学の輝かしい伝統と、人づくりの精神は、本学園の人材育成に引き継がれます。

この様に時代と地域社会のニーズに基づき発展してきた、歴史と伝統ある本学園の3校は、これまで22,000名を超える大勢の卒業生を輩出してきました。この22,000名という数は皆さんになかなか伝わらないかもしれませんが、新潟市の人口が約80万人ですので、およそその35分の1にあたる数です。高等学校のクラスに1名以上は本学園の卒業生がいる、週末の大きな商用施設では、二桁以上の卒業生がいる、商用施設内を歩いていると卒業生に出会うということに相当します。地方都市にある教育機関としては、存在感のある規模の学園の一つと言えます。現在、社会で活躍している卒業生は、皆さんの学生生活が意義あるものになることを期待して、応援しております。

先ほど述べましたように、本学園の建学の精神は「実学一体」であります。「実」は実用、「学」は学問を意味し、学問探求とそれを実行実践していく実用は一体であることを認識し、常にこの両者の両立と調和を図ることが重要であることを表しています。この建学の精神に基づき設立された本学園の3校は、いずれも、学問の成果を社会に役立てることを柱とした教育・研究を推し進めています。新入生の皆さんは、これから学ぶ学問や技術がどのように社会に役立てることができるのかを常に、真剣に考え、それぞれの目標に向かって決意を新たにし、充実した学生生活を過ごしていただきたいと願います。私ども教職員一同、全力で皆さんを卒業の日を迎えるまでサポートいたします。

さて、新入生の皆さんに、学生生活をスタートさせるにあたり、私から三つのお願いがあります。

一つ目は、「新しいことに情熱 (passion) をもって取り組む、チャレンジする」こと、そして、「決してあきらめない」ことです。不可能なように見える事柄であっても、情熱をもって、あきらめずに取り組んでいけば、必ず道は開けます。情熱をもって、一生懸命取り組んでいる人には、知らず知らずのうちに応援団が生まれ、成功へと後押ししてくれるでしょう。私の恩師で、2010年にノーベル化学賞を受賞なされました根岸 英一 先生と、根岸先生の恩師であり1979年に同じくノーベル化学賞を受賞なされました H. C. Brown 先生は、共に、「optimism」という言葉を大切になさっていました。「optimism」は、日本語で「楽観主義」と訳され、「怒ることなく、にこやかに過ごす」ことのように受け取られます。根岸先生、Brown 先生は、「明るく振舞っていれば、困難も苦にならない」という信念のもと、「困難に陥った時でも、絶対にへこたれず、あきらめずに前に進もう」という意味で、この「optimism」という言葉をお使いになられていました。皆さんには「passion (情熱)」と「optimism (へこたれない)」を合言葉に、積極的に新しいことにチャレンジしていただきたいと思えます。

二つ目は、沢山の「友人をつくる」ことです。今、この会場にいる新入生の皆さんの隣には、「同じ志をもつ人たち」がいます。今日から、「同じ志をもつ人たち」と一緒に学んでい

くのですが、「同じ志をもつ」が故に、これから進んでゆく道も同じ方向を向き、それ故、生涯にわたってお付き合いしていく仲間になるでしょう。この「同じ志をもつ人たち」が「生涯の友」となり、必ずや皆さん個人個人の人生を豊かにしてくれることと思います。授業ばかりではなく、サークル活動や社会活動は、友人をつくる絶好の機会です。是非、積極的にサークル活動や社会活動に参加し、沢山の友人をつくってください。

三つ目は、「協働力」、「一緒になって働く／活動する力」を身につけることです。一人の人間ができることは限られています。「同じ志をもつ人たち」が寄り集まって、知恵を出し合い、協働して進めば、一人一人の力の総和よりもはるかに大きな力となり、あるプロジェクトを強力に前に推し進めたり、困難を容易に克服したりできるでしょう。「協働力」を育むためには、「協働作業を行った経験を積む」とことメンバー間で行われる「円滑なコミュニケーション」が重要になります。コミュニケーション力を高め、「友人をつくり」、「協働力」を身につけてください。

これからの学校生活は、皆さんにとってかけがえのないものとなるはずですが、皆さんの学生生活が実り多いものとなるように祈念し、理事長告辞といたします。

令和7年4月5日

学校法人 新潟科学技術学園 理事長 杉原 多公通